

# Kakehashi いさはや

2021  
Vol.2

令和3年3月発行



「高来地区語らん場」の様子（令和元年7月31日）

## 高齢者の暮らしをサポートする

在宅療養では、医療職と介護職の専門職の方々の貢献もさることながら、地域での見守り、地域のキーパーソンの存在は更に大きな力になります。

専門職の皆さん、在宅療養に必要な地域住民しかできないボランティアの活動や支援について、それぞれの立場から一緒に考えてみませんか？

# 住み慣れた地域で暮らすということ

## 専門職の立場から見える地域づくり～語らん場～

「語らん場」は、地区・地域の住民を主体に、医師やケアマネジャー、介護事業所などの専門職の皆さんも参加され、地域の関係づくりが進められています。

### 介護予防と生活支援の「語らん場」をご存知でしょうか??

住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるには、様々な人の支えが必要です。家族はもちろん、医療や介護などの専門職、ご近所や地域の人たちの『支え合い』も、とても大切です。

「語らん場」は、日常生活圏域（概ね中学校区）を単位として、自治会や婦人会などの代表や地域活動に関心のある方々、医療や介護の専門職の方々が集まり、地域で何が課題（困っていること）なのか、何が必要なのか、どうすればできるのかを話し合い、助け合いの活動が広がっています。

この取り組みにより、自分自身の能力を維持・持続することで介護予防（健康寿命を延ばす）にもつながり、また生活支援の仕組みづくり（見守り、声掛け、ゴミ出し）など、住民同士で支え合う地域づくりが進められています。

地域包括支援センターの生活支援コーディネーターや保健師など専門職の皆さんが、地域の「語らん場」や「ミニ語らん場」などに足繁く通い、活動をサポートしています。

#### 生活支援コーディネーター(SC)とは

「地域にある活動を知り、住民の活動を応援する人」です。具体的には、

- ①地域の困りごと(課題)や地域で行われている活動を聞く(情報収集)
- ②地域の困りごと(課題)を整理し、地域で何が必要か一緒に考える
- ③「支援できる人」と「支援してほしい人」を繋ぐなど



活発な意見が交わされる語らん場

各地域で開催されている「語らん場」には、医療系、介護サービス系、施設系など20の業種から120を超える事業所等より、医師や医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、理学療法士など多くの専門職の皆さんも参加され、地域の皆さんと地域の課題や必要な情報を共有し、対応策などを一緒に検討されています。

参加された専門職にお話を伺いました。

### お口の問題と地域づくり

診療の際、きちんと食べているのか？栄養状態は？孤食ではないのか？など、患者さんの背景を考えます。例えば、社会とのつながりがないと食欲がなくなる、食べられない、栄養状態が悪くなる……とフレイルの始まりでもあります。全てが繋がっているから、早い段階から、歯科医として関わってきたいという思いで、語らん場にも参加しています。一人暮らしや閉じこもりがちな方を、地域で見守りができる地域づくりに協力したいですね。地域の医療者だからこそできる提案もあると思うんです。

私たちから地域の間に行くことが大事だと思います。地域の医療者が参加することで、住民さんにとって、敷居が低くなるなどの効果もあるし、私たちも地域の情報を得ることで、患者さんの背景も見えてきたりして、診療の際のアドバイスなども多岐にわたるようになります。



増山歯科医院院長  
増山 隆一先生

## 地域を知り 私たちケアマネを知ってもらう

語らん場には、一番は地域を知ること、人とのつながりが大切なこと、地域に私たちケアマネジャーを知ってもらうこと、そして何か地域に協力できないかとの思いで参加しています。

災害や入退院など非日常の生活になった場合でも、地域とのつながりがあると安心感がありますし、ケアプラン作成の時もそうです。

語らん場に参加すると、いろんな声(情報)を共有できます。私たちがいい仕事をするには、利用者様へ還元することに繋がります。これからもぜひ参加していきたいですね。

古川医院居宅介護支援事業所  
主任介護支援専門員  
北嶋 星子さん



## 在宅へ地域のちからを実感

医療(病院)は、患者さんの課題に初めて気づく、きっかけになることがあります。ケアマネさんがいたらよいのですが、介護保険にも該当しないような方の場合、相談できるところが限られていたり、地域の社会資源がわからなかったりと、もどかしく感じることもありました。そんな時、語らん場のお話を聞いて、ぜひ地域のことを知りたいと思い参加しました。地域ごとのいろんな活動があることを知り、「在宅」にと考える患者さんの力強い社会資源として、地域の方と繋がる手掛かりを得ることができました。

諫早記念病院医療連携室  
医療ソーシャルワーカー  
白濱正太郎さん



## 地域包括支援部を立ち上げ

見松会しろみでは、地域社会に貢献できるよう専門職からなる地域包括支援部を立ちあげています。語らん場に参画することで、地域によってニーズや課題が違っていることも分かり、その課題に自分たちに出来ることや、地域の方との交流で社会資源を知ることにつながっています。例えば、踊りの練習場所の提供や語らん場の場所の提供など、協力できることから始めています。地域で支えていくためには、横の繋がりはあるけど、縦の繋がりがなかなか出来ないとの意見もありました。これからも地域の皆さんと一緒に考え、出来ることから貢献していきたいですね。

見松会しろみ  
介護支援専門員  
日高 恵子さん



## 地域での役割を考える

コンパスウォーク栄町では要支援・要介護の方々を受け入れていますが、その方たちがここを「卒業」された後、地域にどんな受け皿があるのかを知りたくて参加したのがきっかけです。地域でいろんな活動が活発にされているのを知ることができ、また地域での自分たちの役割・責任を考えるようになりました。住民の方の困りごとを聞きながら、例えば体力測定や健康相談のできる場など、気軽に立ち寄れる場所を提供することはできないかと今、思案しているところです。

コンパスウォーク栄町  
理学療法士  
浦川 春樹さん



## 在宅医療・介護が必要な人でも…

今では「語らん場」も地域に定着し、サロンの立ち上げや自主活動へと広がりを見せています。

「住民が自分事として考えてもらうようになるにはどうしたらいいか」、生活支援コーディネーターが地域の困りごとを聞き、地域の特性を感じとり、地域包括支援センターでも情報共有し、試行錯誤しながら、時間をかけてきた成果だと思えます。「語らん場」に参加されている専門職の皆さんは、それぞれの立場から、健康寿命を延ばすための支

援や在宅療養に必要な地域住民が出来る支援などについて、意見交換されていました。

一人暮らしや高齢者のみの世帯が増えていく中、「退院して在宅でも生活できるの？」との本人やご家族の心配事を地域ぐるみで支えることができれば、「在宅」という選択肢がクローズアップされてくるのではないのでしょうか。

病气やけがで入院し、退院後も「安心して、住み慣れた地域で最期まで暮らしたい」との思いを叶えられる地域づくり、目指す地域包括ケアシステムが具体化してきているように思われます。

## 市民講演会を開催しました

令和2年11月14日(土) 有喜ふれあい会館

在宅医療と介護の市民講演会「在宅医療ってなあに？～あなたを支える医療と介護～」を開催しました。

藤原先生からは、かかりつけ医を持つことや、最期までどのように暮らしていくか事前に考えておくことの大切さをご講演いただきました。

歯科の増山先生からは、オーラルフレイル予防や訪問歯科診療の実際について、また、薬剤師の高山先生からは、薬剤師も訪問することやかかりつけ薬剤師を活用することなどご講演いただきました。

今後も市民の皆様を対象に、市内各地域で「在宅医療と介護」をテーマに講演会を開催していきます。



### 1. ご存知ですか 介護保険

市高齢介護課課長 米田 健二様

### 2. 「在宅医療から看取りまで」

藤原医院院長 藤原 隆様

### 3. 「歯科から提案～お口の問題と地域連携～」

増山歯科医院院長 増山 隆一様

### 4. 「薬剤師も在宅へ訪問します」

そうごう薬局諫早小野町店 高山 明美様

## 「在宅医療・介護関係者」研修会を開催しました

令和2年11月26日、日赤長崎原爆諫早病院院長の福島先生に、「新型コロナウイルス感染症について」をテーマに、ご講演をいただきました。

初のZoom研修ということで、事業所単位での申込みをお願いしたところ、59事業所・施設からの申し込みがあり、概ね160名の皆さんが視聴してくださいました。県内でも感染者が日々報告されるようになり、第3波が長崎にもじわじわと迫ってきている中での研修会では、これまでの情報を整理、確認することもでき、これからまた気を引き締めて、それぞれがマスク・手洗いの基本を確実にやっていかなければならないことを再認識することができました。

Zoomについては「思ったよりも簡単だった」「音声も聞き取りやすくリモートでも不便を感じなかった」「オンラインだと参加しやすい」という意見が多く、これからも定期的にZoom研修会を開催していきたいと考えています。

今回残念ながら参加できなかった方、次回の参加をお待ちしています。



## 編集後記

「語らん場」は、コロナ禍でも規模を縮小して開催するなど歩みを止めず、前進していました。参加されている専門職の皆さんからは、“地域とつながりたい”“地域の力になりたい”という思いを強く感じました。

そのような思いが、地域を支え合う視点や地域の力をより強くし、安心して在宅療養できる地域へと、また一歩近づくことができると思います。

これからも「Kakehashi いさはや」で、医療・介護関係者のみなさんの顔の見える関係づくりに取り組んでまいります。情報紙へのご意見・ご要望がありましたら、お知らせください。



## 諫早市在宅医療・介護連携支援センター かけはしいさはや

〒854-0061 諫早市宇都町29-1 健康福祉センター内

TEL: 46-3166 FAX: 46-3167

E-mail: isahaya.zaitaku.renkei@iaa.itkeeper.ne.jp

URL: <https://kakehashi-isahaya.com/>

